

「むなかたのみんな（むーみん）」
で
取り組んだ拠点事業

宗像医師会
在宅医療連携拠点事業室
むーみんネット 久米祥代

本日の発表

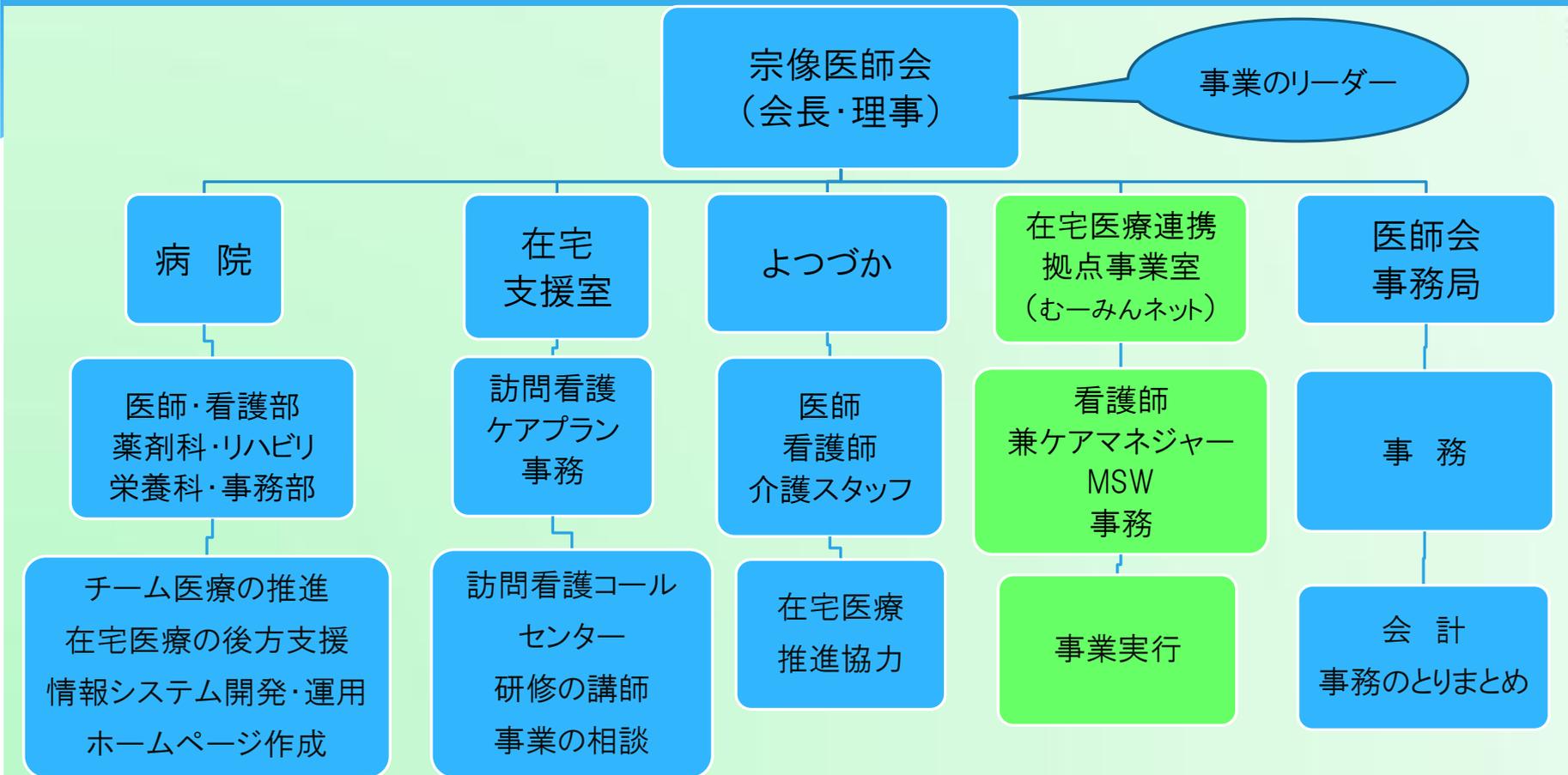
1. 宗像医師会
在宅医療連携拠点事業について
2. 課題抽出の方法
3. 取り組んだ事業
4. 今後の展望

1. 宗像医師会在宅医療連携拠点事業室

福岡市と北九州市の間に位置し、北九州市、福岡市のベッドタウンとして発展している。大島や地島も市域に含む。



宗像医師会 在宅医療連携拠点事業室組織図



看護師(常勤)



MSW(常勤)



事務員(パート)

宗像医師会としての強み

- * 組織内での協力体制がある（医師会・病院・訪問看護ステーション・ケアプランサービス・老人保健施設等）
- * 医療と介護をつなぐ役割
- * 地域に根差した先駆的な「訪問看護ステーション」
- * 職能団体との連携（薬剤師会・歯科医師会等）
- * 行政との連携（保健福祉環境事務所・地域包括支援センター）
- * 福岡県在宅医療推進事業に協力
- * 住民への啓発がしやすい
- * 担当理事が「都道府県リーダー」

2. 課題の抽出

- * 既存研修会に参加
年12回・・専門職団体・行政機関・患者会・
病院等が主催の研修、
在宅医療推進フォーラム等
- * 多職種事業所への訪問やアンケート
- * 職能団体への聞き取り
- * 定例委員会での把握

定例委員会の開催

プロジェクト委員会



担当理事・訪問看護師・病院職員・
ケアマネジャー・老健看護師・
医師会事務局・拠点スタッフ等

毎月開催

拠点事業運営委員会

医師会・歯科医師会・薬剤師会・
行政（宗像市・福津市）保健所
訪問看護師・ケアマネジャー・
学識経験者等のメンバーで構成
年4回 開催



地域の課題と対策

目標	課題	対策
在宅医の確保	<ul style="list-style-type: none">・在宅医の不足・熱心な医師の負担大	<ul style="list-style-type: none">・1人の患者を複数の在宅医が担当し、医師の負担を軽減・医師間の情報共有
専門職の技術の向上	<ul style="list-style-type: none">・専門職が自信を持ってない医療ニーズの高い療養者の支援	<ul style="list-style-type: none">・看護・介護・薬剤師等へのスキルアップ研修の実施
関係機関の連携促進	<ul style="list-style-type: none">・バックベッドの確保ができない・医療と介護の連携ができない・情報共有ができない	<ul style="list-style-type: none">・後方支援病院との連携促進・顔の見える関係づくり(医療と介護を結ぶ)・IT・資源マップを利用した情報共有・各職種への連携に向けた取組
住民意識の向上	<ul style="list-style-type: none">・住民は、在宅療養や在宅看取りという選択肢を知らない	<ul style="list-style-type: none">・住民啓発・社会資源の情報提供
災害対策支援	<ul style="list-style-type: none">・地域の災害への取り組みが見えない	<ul style="list-style-type: none">・取り組みについての情報共有

3. 事業の取り組み

①職種別研修

②多職種協働研修

③住民への普及・啓発

④災害時に備えた取り組み

年間計画表

	H24											H25			計
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
プロジェクト委員会	2回(5/24, 28-30) (24日、委員会設立) 計画書提出	2回(6/12-28) 地域の実態調査 事業チームのキーピング (ホームページで決定)	1回(7/9)	1回(8/30)	1回(9/27)	1回(10/25)	1回(11/9)	1回	1回	2回	2回	15回			
事業チームメンバー選出		事業チームメンバー選出													
事業チーム(2名・事務)		事業チーム活動 運営委員へ出席依頼文 書発送				資源マップ完成、厚労省、県へ		拠点事業活動進捗報告(厚保へ)				1/20 拠点事業			
既存の研究会 参加・支援		既存の研究会開催状況 把握 6/13ケアマネネット 基 幹研究会開催	7/13 訪問看護 基幹研究会 研究会「看護ケア」 18:30～19:30 講師、開 講先生	8/17(9:30～21:30) NPO「在宅ホスピス」を 語る会(打ち合わせ)の 仮対面ネットにて行われ る予定	9/27(木)18:00～19:00 暫センター上合同研究会 開催支援										
地域の情報収集		パンフレット送付先の把握、 ネットワークの実態把握	ショートステイの空き情報、 医療依存度の高い方の受け入れ状況	ショートステイの空き情報 ホームページ掲載検討 資源が活用されるためのア ンケート調査	資源サイト作成のための アンケートの取りまとめ、 マップとのドッキング検討										
多職種ネットワークへの 会合参加支援	・訪問看護連絡協議会・ ケアマネネット・保健所 医療連携	・ネットワーク情報収集・ 支援	・基幹研究会(基幹材の提供 システム支援(地区の医師 ・訪問看護に異動)	・小児医療(レスピバ)の 受け入れ検討(福岡東 医療センターへ、各職種情 報収集中)	・歯科医師会の研究会参加 10/18(13:30～16:30) 「口腔ケアの重要性と共同」参加・支援	11/20 在宅ケアスター 打ち合わせ(この後のシ ンポジ)						1/12, 13, 30 「在宅ホスピス」 介護者体験			
主催する研究会・事例検討会・ 交流会(医師・訪問看護・ ケアマネ)				介護職対象 第1回事例検討会3名 アドバイザー1名 8/28 18:00～19:30 (参加費別送)	9/26(木)「高齢者福祉 施設による取り組み」開催 所 若野先生 参加・ 支援	ケアマネジャー対象 第2回事例検討会3名 アドバイザー1名 10/11 13:30～15:30		医師対象 第3回事例検討会1名 アドバイザー1名 (11月に合同開催済み)				事例提供者12名 アドバイザー4名			
医師交流会開催															
災害対策				ケアマネへ要援護者(医療 依存度の高い方)把握 のためのアンケート調査	災害対策への取り組み 状況について意見交換 ケアマネアンケート結果 取りまとめ										
訪問支援	事業チーム2名、在宅支 援室、暫センター等	支援回数 2回	1回	—	—	5回程度(予定)	5回程度(予定)	5回程度(予定)	5回程度(予定)	5回程度(予定)	5回程度(予定)	40回程度			
相談支援		支援回数 2回	始動 2回	2回	1回	4回	3回	4回							
訪問看護		地域連携ネット構築	ITによる情報共有システム 構築計画	9/25 P4(保健2名)連携 9/25 小倉医師会見学											
拠点事業運営委員会 行政・医師会・基幹研究会 等多職種で構成															
行政含む多職種 行政含む多職種		各組織へ地区や連携への 情報伝達 アンケート作成 運営委員へ出席依頼文 書発送	第1回目 7/28 16:00～17:30	第2回目 8/27 16:00～17:00											
広報活動		ホームページ立ち上げ 研究会開催情報提供開始	研究会開催情報提供開始 (9/7ケアマネネット) お知らせメールスタート 保健所HPでも広報、案内 シボジウム・研修案内)												
包括支援センター・行政 関係・医師会・訪問看護・ ケアマネ・がん拠点 病院配布		7日、保健所主催研修に 参加(長杉)	拠点事業/シプレット作 成・配布・3000部												
全職種合同研究会・意見 交換会															
住民向け研究会等															
備 考															

ブルーは
すでに実施

①職種別研修

介護職

研修の機会が少ない
行っているケアの
根拠を知りたい



8月9日 介護職対象研修（参加者 81人）

「看護の視点を生かした高齢者ケア」

座学と実技講習

介護支援専門員

実は
地域包括の実践を
聞く機会がなかった



10月11日 介護支援専門員対象（参加者71人）

「地域包括支援センターの困難事例への対応を学ぼう！」

医師会病院 腎センタースタッフ

透析をしている人を
受け入れてくれる
介護サービス事業所が
少ないみたい・・・



9月27日 介護サービス事業所対象（参加者77人）
「慢性腎不全・透析に関する学習会」

薬剤師 訪問看護師

薬剤師：在宅での褥瘡ケアの
実態がわからない
訪問看護師：基本から難治性
褥瘡ケアまでを学びたい



7月13日 薬剤師・訪問看護師対象(45人参加)
「スキンケア・褥瘡ケア」

在宅医師

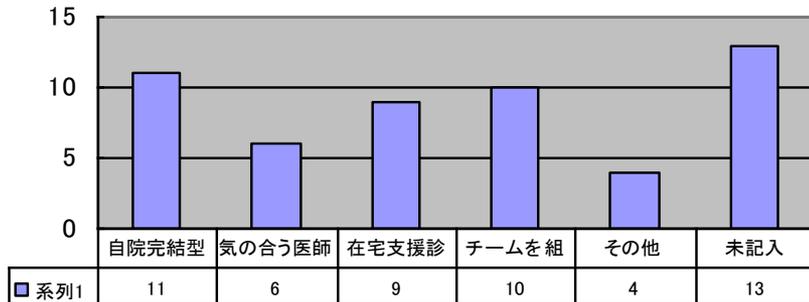
学会などの不在時にお互いにカバーしあうことができれば安心だね



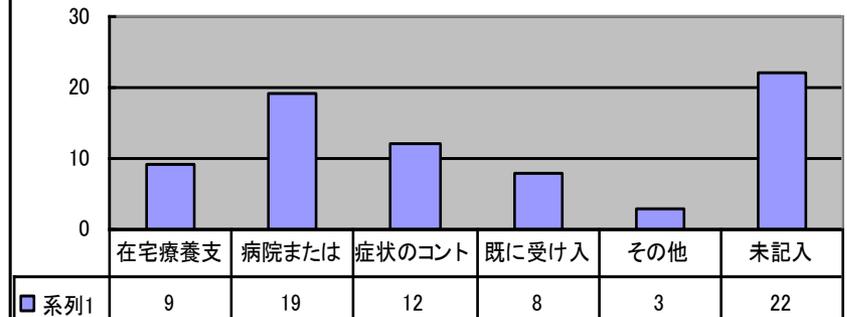
**11月14日 医師対象（参加者27人）
「不在時の医師の連携について」**

事前アンケートの結果・・・

24時間診療の医師の負担軽減策と
医師間の連携



ターミナル患者さんの訪問診療を
受ける条件としては



一足飛びにネットワークづくりをするのではなく、
まずは在宅医連携のための
共通ツールをつくることから始めよう・・・

共通ツール

在宅用診療情報提供書

担当医	科	先生
紹介元医療機関		
医療機関名		
住所		
TEL		
FAX		
紹介		
保険情報		
ふりがな	患者氏名	
患者住所	電話番号	要支援 1 2
生年月日	明・大・昭・平 年 月 日 (才)	要介護 1 2 3 4 5
保険情報	保険者番号	公費 公費番号
	記号番号	被保険者との続柄 本人・家族
連携先	ケアマネ	訪問看護 緊急搬送先病院 その他
日常生活自立度	寝たきり度 N J1 J2 A1 A2 B1 B2 C1	装置・使用医療機器等
認知症の状況	認知症の状況 N I IIa IIb IIIa IIIb IV	1. 自動排痰灌流装置
アレルギー	アレルギー (有)	2. 透析液供給装置
感染症	HEV	3. 酸素療法 (l/min)
傷病名		4. 吸引器
既往歴		5. 中心静脈栄養
治療経過		6. 輸液ポンプ
現在の処方	麻薬 (有・無)	7. 経管栄養 (経鼻・経腹:サイズ)
備考		8. 留置カテーテル (サイズ)
		9. 人工呼吸器 (筒圧式・筒圧式) (サイズ)
		10. 気管カニューレ (サイズ)
		11. ドレーン (部位)
		12. 人工肛門
		13. 人工膀胱
		14. その他
●ターミナルの場合、本人への告知の状況		

**担当ケアマネ
訪問看護
緊急連絡先**

バックベッド受け入れ手順書

病診連携で支援するバックベッド確保やレスパイト入院 受け入れ手順

目的

宗像医師会病院は在宅医療を包括的、継続的にできることを支援していくためバックベッド（緊急一次入院ベッド）の確保やレスパイト（家族等介護者の休息入院ベッド）入院受け入れを確保し、在宅医療を支援しています。最期の時まで自宅で希望されている方でも患者さんが希望した場所で、安心して療養ができるように病院としても受け入れ態勢を整えています。患者さんや家族の要望に答え、在宅診療に携わる医師や訪問看護師等との連携をタイムリーにとれる仕組みです。

対象者

在宅療養中の方で緊急の入院や家族の介護休息のために入院が必要な患者

バックベッドまたはレスパイト入院の流れ

～在宅医やかかりつけ医、患者さん・ご家族へ～

- 在宅療養中の方で入院や受診の必要性が発生すれば在宅医やかかりつけ医の先生方は宗像医師会訪問看護ステーションと相談の上情報提供書をお願いします。
- 地域医療連携課は訪問看護ステーションから登録の連絡が入りますので、外来診療録の有無を確認してください。
- 地域医療連携課の職員は入院担当医師へ連絡をし、登録患者の報告をお願いします。
- 地域医療連携課は訪問看護ステーションが登録の後は診療情報提供書の原本が訪問看護ステーションから届きますので「訪問看護情報共有システム」のファイルへ保管します。（入院後原本を外来診療録に差し替えて、保管いたします。）
- 外来診療録のある方は外来診療録へ情報提供書を綴じて保管し、来院に備えます。
- 外来診療録のない方は『訪問看護情報共有システム』へ登録して「訪問看護情報共有登録証」を訪問看護ステーションから発行し、患者さん・ご家族へ手渡し致します。
- 訪問看護情報共有登録証（カード）はご家族が保管してください。ご家族はそのカードと被保険者証と一緒に入院または受診の際に医事課受付窓口へご提示下さい。（患者さんの受診には夜間、休日もあり得ますので、当直、宿直で対応いたします。）
- 医事課職員がその情報をプリントアウトして外来診療録と一緒に診察の際に提示します。
- 医事課職員は訪問看護情報共有登録証（カード）所有者であることを外来診療医師

在宅医療診療報酬

在宅医療にかかる診療報酬について

患者さんと共有できる

診療所

外来点数マニュアルより一部抜粋し作成

2012年4月版

診療報酬研究会編著

宗像医師会在宅医療連携拠点事業室

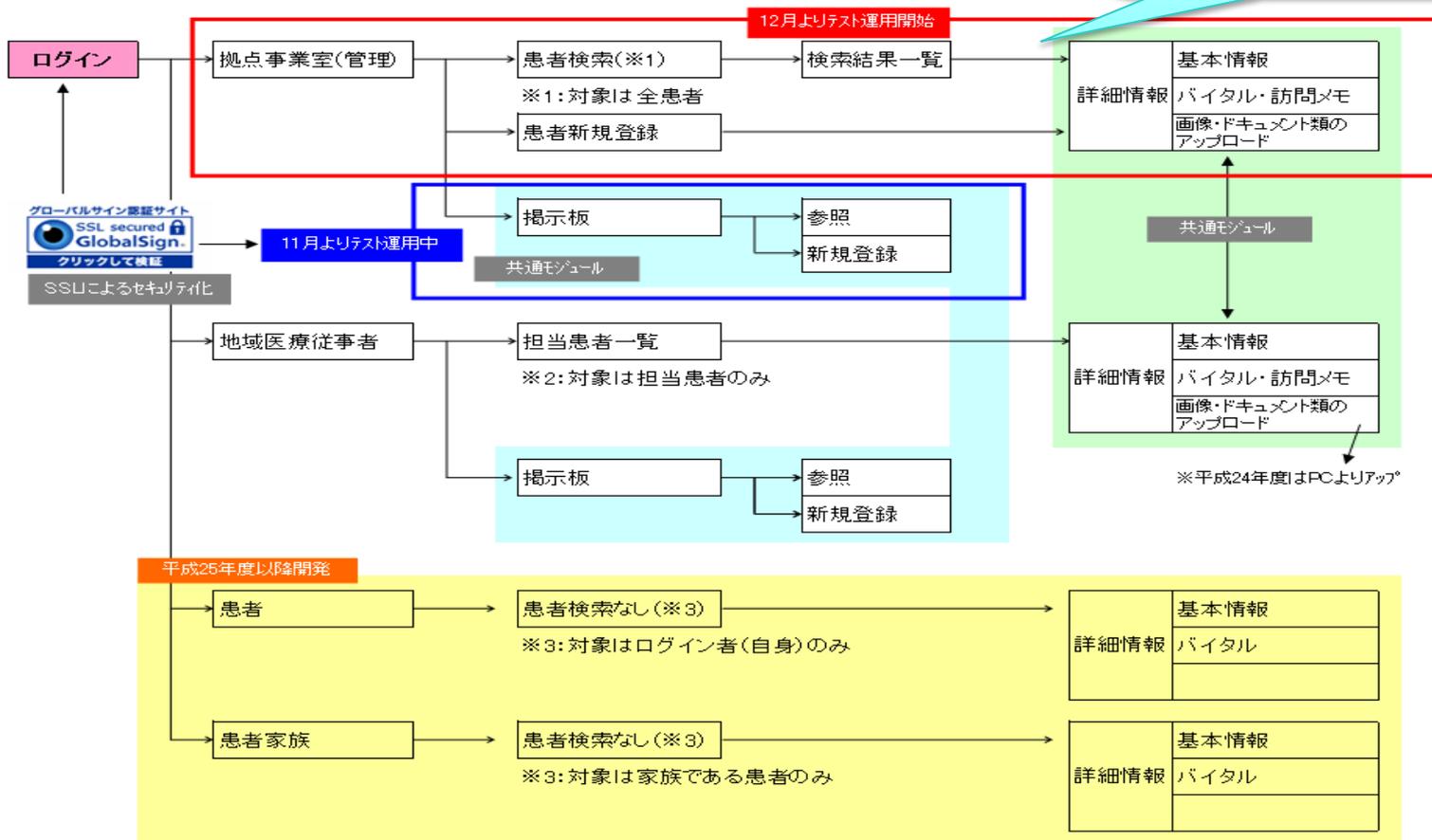
むーみんネット

iPadを使った 連携システムを開発中！

目的

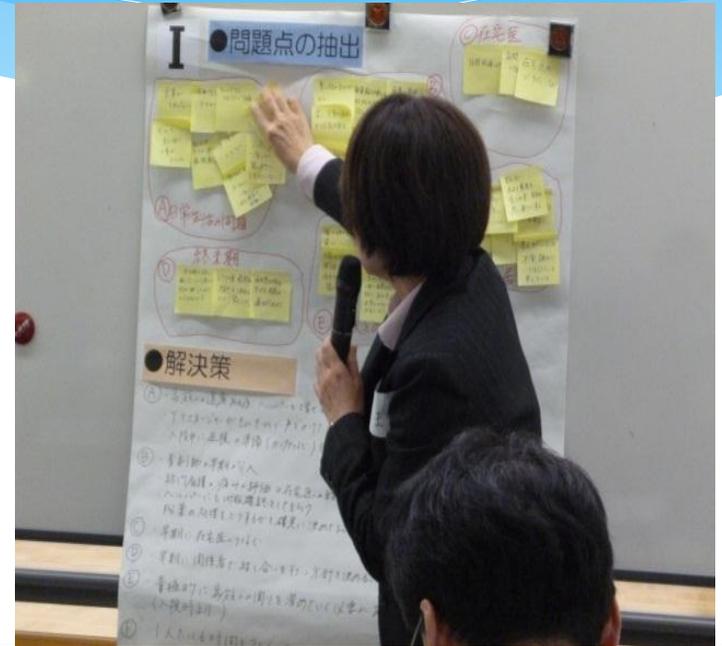
- ・タイムリーな
情報共有
- ・多職種間でも
実施可能なもの

むーみんネットシステム画面遷移図



②多職種協働研修

第1回 多職種協働研修



12月6日 「介護職との連携について」(参加者80名)
(独居の子宮体がん末期の在宅看取りを多職種で支える)
KJ法を用いたグループワーク

第2回多職種協働研修

命の臨床を語る 噛む。

講師
河原 英雄



昨今の話題は超高齢化に伴い医療・介護現場で口腔ケア等の「口の中の健康」の重要性が取り上げられています。

「食べること」「語らう事」は高齢者の生きる喜びを支えているものであります。

この「食べること」を支えている歯の現状は、75歳以上の無歯顎者の割合男性27.7%女性34.2% (2005年実態調査)です。

今では総義歯について大学教育でも研究者の集まる学会でも話題になることは滅多にありません。歯科医は高齢者がおいしく食べられるための医療を十分提供できているのでしょうか？

保険診療で快適に機能する総義歯を提供することができずに歯科医療の本当の価値を知ってもらうことはできないと思います。歯科臨床の現場をあずかる私たちは高齢者の暮らしを支える医療の実現に幾ばくかの力を注ぐべきではないかと考えあえてお話させていただきます。

口の中の健康とは？口の中を健康にすることで得られるものとは？

日時 2013年3月12日(火)
18:00~20:30

会場 宗像医師会3F講堂

定員 100名 出来るだけお早めにお申し込み下さい。

座長 きたむら歯科医院
院長 北村哲朗

主催 むーみんネット

協力 株式会社 林衛材



講師紹介
医学博士 河原英雄
略歴
昭和16年福岡県生まれ
九州歯科大学卒業
福岡市にて開業
大分県佐伯市に移転開業

九州大学歯学部臨床教授
台北医科大学歯学部臨床教授
奥羽大学歯学部客員教授
明海大学歯学部非常勤講師
九州歯科大学非常勤講師
日本審美歯科協会会長
日本顎咬合学会会長
等歴任

3月12日

命の臨床を語る「噛む」

効率的な医療提供のために・・・

資源ガイドの作成 (アンケート調査より)



宗像地区医療機関診療機能情報

	医療機関名	地区	紹介していた いた癌患者の 術後フォロー	癌手術患者外来フォロー		抗癌剤治療		麻薬管理 (疼痛コント ロールを含む)	丸山 ワクチン	G-CFS 製剤
				早期	進行	経口	注射			
あ			要相談			要相談		要相談		
						要相談				
			○	○	○	要相談	要相談	○	要相談	要相談
			○	○	○	○	○	要相談		
			要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談		
			要相談							
			○		○	○	要相談	○	要相談	
			要相談	要相談	要相談	○	要相談	要相談		要相談
			要相談	要相談	要相談					
			○		○	○	○	○	○	
か			要相談					○		
			○	要相談	要相談			○		
			要相談	要相談	要相談					
			○	要相談	要相談	○	要相談	要相談		要相談
			要相談	要相談	要相談					
			○		○	○	要相談	○	要相談	
			要相談	要相談	要相談					
			○	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談		要相談
			要相談	要相談	要相談					
			○	○	○	要相談	要相談	○	要相談	○
さ			要相談							
			○	○	○	○	要相談	○		○
			○	○	○	○	○	○		
			要相談	要相談	要相談	要相談	要相談			
			○	○	○	○	要相談	○	○	○
			要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談
			○	○	○	○	要相談	○	要相談	要相談
			○	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	
			要相談	要相談	要相談	要相談	要相談	○		

在宅医療への取組情報

医療機関名	クリニック			院長名			
				窓口担当者 (Dr代理対応の方)			
住所	〒811-3434			TEL		FAX	
				メール	★各自でアドレスを交換してください		
在宅医療の取り組み (○をつけてください)	主治医意見書の記載			<input checked="" type="radio"/> 対応している	<input type="radio"/> していない		
	訪問診療			<input checked="" type="radio"/> 定期的に訪問している	<input type="radio"/> していない		
	新規の訪問診療			<input checked="" type="radio"/> 受けてよい	<input type="radio"/> 受けられない		
	かかりつけ患者の臨時往診			<input checked="" type="radio"/> 対応している	<input type="radio"/> していない		
	在宅医療支援診療所の届出			<input checked="" type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無		
医師との面談方法 優先順位 (1~6の番号をつけてください)	直接面談	往診同席	外来同席	電話連絡	FAX連絡	メール連絡	その他
	3	1	2	4	6	7	
担当者会議への 医師の参加 (○をつけてください)	先生の都合に合わせた時間で、先生の医療機関で開催の場合			<input type="radio"/> 30分以内なら可能	<input checked="" type="radio"/> 15分以内なら可能	<input type="radio"/> 困難	
	訪問診療に合わせて、患者宅で開催の場合			<input type="radio"/> 30分以内なら可能	<input checked="" type="radio"/> 15分以内なら可能	<input type="radio"/> 困難	
退院時カンファレンス への医師の参加 (○をつけてください)	先生の都合に合わせた時間で、入院先医療機関で開催の場合			<input checked="" type="radio"/> 30分以内なら可能	<input type="radio"/> 15分以内なら可能	<input type="radio"/> 困難	
主治医にアポイントメントとる際に 比較的対応が可能な時間帯	曜日 (○×をつけてください)			月	火	水	木
	時間帯 (自由記載をお願いします)			8:30~9:00			
多職種の方々への要望 (連絡時の注意事項等)	ケアマネジャー連絡・訪問可能時間			連携ガイドに記載 (○可)・不可)			

介護事業所機能情報

営業時間		◎○△×でお答えください																				併設されている事業所									
		加算の届け出			訪問体制			リハビリスタッフ			実施できる医療処置等										受け入れ										
8:30 ～ 17:15	土曜日は 8:30 ～ 12:30	緊急時訪問看護加算	24時間連絡体制	特別管理加算	ターミナルケア加算	土曜日の対応	日祝日の対応	準夜・深夜・早朝の対応	理学療法士	作業療法士	言語療法士	点滴の管理	中心静脈栄養	透析（腹膜透析を含む）	ストーマ	酸素療法	レスピレーター	気管切開	疼痛看護（麻薬有）	経管栄養	褥瘡処置	カテーテル	吸引・吸入	浣腸・排便	在宅での看取り	小児	精神疾患の方	難病の方	ターミナルの方	人工呼吸器装着の方	
				○	○	○	○	△	△	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
			○																												

◎特に力をいれている ○可能 △要相談 ×不可

オプション・事業所のアピール

介護予防の方から医療ニーズの高い在宅療養者、在宅看取りの方まで、在宅で療養されているすべての方に訪問看護を提供します。医師会立訪問看護ステーションとして、病院、在宅医、薬剤師、ケアマネジャーなど多職種と連携し24時間365日安心で安全なサービス提供に努めます。

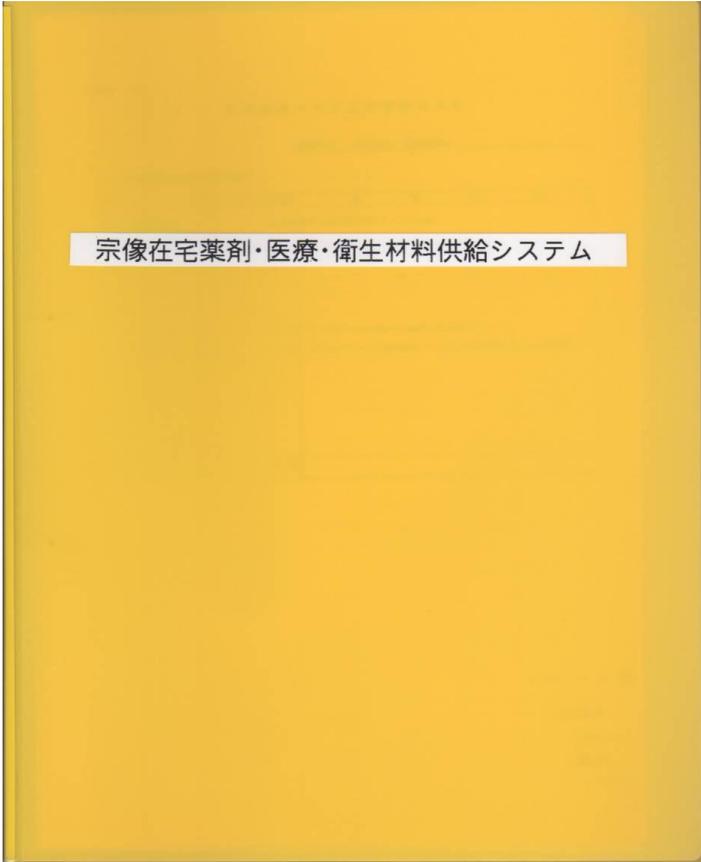
連携ガイドに記載

(可 不可)

事業所マップ



在宅支援ネットワークマニュアル



宗像在宅薬剤・医療・衛生材料供給システム

- 薬剤・医療衛生材料供給システム
- 在宅用診療情報提供書
- バックベッド・レスパイト入院受け入れ手順書
- 災害時のマニュアル

等掲載

③住民への普及・啓発

広 報

パンフレット作成



ホームページ開設

第1回 在宅医療シンポジウム(宗像市)



シンポジウム

期日：平成24年9月22日(土)

場所：メイトム宗像

第一部 講演 13:00～15:00

「見た目と心の関係」

かづきれい子氏

第二部 シンポジウム

15:10～16:30

「あなたの家に帰ろう」

座長 福岡県立大学教授

尾形 由起子氏

参加者：地域住民 130人



相談コーナー

第2回 在宅医療シンポジウム

福津市(2月23日)



パネリスト
打ち合わせ！

第2回 **むーみんネット** Mumin-net 入場 無料

在宅医療シンポジウム

平成25年
日時 **2/23** 土 開場 / 12:30 開演 / 13:30~16:30 場所 **ふくとびあ(福津市)**
福津市手光南2丁目1番1号(手光の信号機西)

第一部 13:30▶14:20

特別講演『私の白血病』

通谷メンタルクリニック 院長 **森山 成樹** 氏

略歴

1947年 福岡県小郡市生まれ
 69年 東京大学文学部仏文学科卒業
 株式会社 株式会社
 78年 九州大学医学部卒業
 九州大学病院、福岡県立大学病院、
 八幡厚生病院に精神科医として勤務
 2005年 通谷メンタルクリニック院長

ペンネーム **帯木 達生** (おびき だてい)

著作

三たびの海戦 1992年 第140回川原武次文学新人賞
 閉鎖病院 1994年 第9回山崎武彦賞
 遠く 1997年 第10回山崎武彦賞
 水鏡 2005年 第21回山崎武彦文学賞
 ソルバ(早稲) 2012年 第26回山崎武彦文学賞
 橋の春第一軍団たちの黙示録 2011年
 愛の軌跡—軍団たちの黙示録 第1回日本医師会最大賞

その他に「龍馬農場」「食卓戦線」「エンゾウ」
 「千太郎の恋人」「風花病院」「白獅子」など著作多数



第二部 14:30▶15:40

パネルディスカッション 『“終の棲家”について 一緒に考えてみませんか』

座長 ● 尾形 由起子氏 (福岡県立大学 看護学部 教授)

● パネリスト

柴田 順二氏
(丸亀ケアクリニック 院長)

橋本 喜美代氏
(大光光ふく健康看護ステーション 所長)

福元 剛氏
(丸亀ケアクリニック アブランチサービスグループ グループ長)

元嶋 のぞみ氏
(介護体験者 宗像医師会病院 緩和ケア認定看護師)

同時開催(無料)

- 在宅医療相談
- 介護の実技相談
- 介護用品展示
- 血圧測定
- 体成分分析
- 骨密度測定
- 脳年齢測定

福岡サンテラスによる
物品販売

主催 ● 社団法人宗像歯科医師会、社団法人宗像薬剤師会、福津市、宗像市、宗像市、遠賀保健福祉環境事務所
 後援 ● 宗像医師会 在宅医療連携拠点事業室 むーみんネット 〒811-3431 宗像市田馬5丁目5-3 宗像医師会院内1F (地域医療連携室)

問合せ ● TEL.0940-37-5020 FAX.0940-37-5021

老人会の会合へ参加

1月～3月 6回



原町公民館にて（参加者 35名）

- ・むーみんネットの説明
 - ・高齢者社会の到来
 - ・自分の最期は？
- 「在宅医療という選択肢もありますよ」

④災害に備えた取り組み

④ 災害発生時に備えた 在宅医療体制への取り組み

目的：災害対策における医療ニーズの高い方への支援や行政の
取り組みの現状把握

2回シリーズ 11月29日(第1回 参加者 52人)
12月13日(第2回 参加者 48人)

報告者

- 在宅酸素の業者●人工呼吸器の業者●腹膜透析の業者
- 訪問看護ステーション●むーみんネット●宗像市・福津市
- 宗像遠賀保健福祉環境事務所●宗像地区消防本部

医療依存度の高い方への取り組み



行政の取り組み



目標は達成！

目標	課題	対策
在宅医の確保	<ul style="list-style-type: none">・在宅医の不足・熱心な医師の負担大	<ul style="list-style-type: none">・1人の患者を複数の在宅医が担当し、医師の負担を軽減・医師間の情報共有
専門職の技術の向上	<ul style="list-style-type: none">・専門職が自信を持ってない →医療ニーズの高い療養者の支援	<ul style="list-style-type: none">・看護・介護・薬剤師等へのスキルアップ研修の実施
関係機関の連携促進	<ul style="list-style-type: none">・バックベッドの確保ができない・医療と介護の連携ができない・情報共有ができない	<ul style="list-style-type: none">・後方支援病院との連携促進・顔の見える関係づくり(医療と介護を結ぶ)・IT・資源マップを利用した情報共有・各職種との連携に向けた取組
住民意識の向上	<ul style="list-style-type: none">・住民は、在宅療養や在宅看取りという選択肢を知らない	<ul style="list-style-type: none">・住民啓発・社会資源の情報提供
災害対策支援	<ul style="list-style-type: none">・地域の災害への取り組みが見えない	<ul style="list-style-type: none">・取り組みについての情報共有

4. 今後の展望

- ①事業の継続（点を線に→線を面に）
- ②在宅医のさらなるネットワークの構築
 - ・複数の在宅医
 - ・ITを利用した情報共有

（タイムリーに・多職種・病院も）
- ③24時間在宅医療を支えるさらなる取り組み
- ④行政機関との連携（研修の一元化等地域の拠点に）
- ⑤住民啓発→ボランティアの育成
- ⑥災害支援の継続
- ⑦地域リーダー研修の拠点（研修の事務局的作用）

ご静聴ありがとうございました